

第15回空間デザイン・コンペティション審査講評

北川原温

提案部門 金賞に選ばれた川口案は、森を黒の空間で切り取り、まるでブラックホールのような時空を生み出す卓越した着想で大変印象的であり、他に類似した案はなかった。銀賞の松井+百枝案は、まずプレゼンテーションの美しさに目が留まった。森全体をロッジとしてしまうシュールリアリスティックな表現の中に、人と自然の関係が心象風景として批判的に謳われていて印象深い。銅賞の江原案はとても素直で自然である。すぐにも実現できそうであり温かさを感じる。ただ、環境設定にもう少し工夫がほしかった。佳作となった高倉+黒田案は詩

的で美しく感動的である。そこにどんなロッジが建っていたのであろうか、さまざまなイメージが浮かんでくる。見るものにロッジを想起させる優れた提案だ。同じく佳作の奥山+石ヶ谷案は文明論的な発想でわかりやすいアフォーリズムとなっている。こういう危機感がデザインには必要だ。今掛案は風景を内部空間に取り込む提案の中では光っている。また入賞しなかった案の中にも想像力豊かな案、プレゼンテーションの優れた案など多種多様の案が見られ、審査会では活発な議論が展開された。

作品例部門 金賞となった「Twin-Bricks ガラスブロッ

クシリーズNo.2」は、鉄骨とガラスブロックとALCを構造として用いた点が評価された。立面のデザインはバランスに欠ける感もあるが、構造上の創意工夫がそれをカバーしている。銀賞の「赤坂サカス」は品格があり、ディテールもきれいにまとめられていて好感が持てる。銅賞となった「光のモザイク+小田急新宿ミロードリニューアル計画」は、ファイアライトを巧みにショップデザインに取り込むことに成功している。「イニシア帝塚山」は惜しくも佳作となったが、FRPグレーチングのシルエットを効果的に使ってシンプルで上品な演出をしている。

横山孝治

提案部門 取り組んだ仕事によって、建築家は成長する。発注者の熱い思いや、厳しい設計条件に挑戦し、創造的な才能が醸成されるからであろう。今回の課題「自然と人間の関わり合い」は、広く自由なテーマである。それだけに、どこに何を設定するか迷ったことと思う。ごく地味な中に建築空間への拘りと説得力のある作品を期待して審査に臨んだ。金賞の川口案は、クリステルネコを用いた直線的な空間構成に無限の自然を映し込み、風・雨・光・鳥などの万物の動きと人間の心の対比を予感させる、切れ味のある傑出した作品である。

銀賞の松井+百枝案は、ガラスの透明さと不透明さを取り上げ、家具で人間の生活を秩序立てた魅力的で心豊かな提案である。誰もが知っている素朴な北国の風物「かまくら」を、素直にかつ優しく表現している銅賞の江原案は、心のこもった傑作である。佳作の柳橋+岩井案は大きな自然の豊かさとしらさをガラスの構成で簡潔に表現し、自然の真っ只中に設定したスケール感のある作品である。

作品例部門 金賞の「Twin-Bricks ガラスブロックシリーズNo.2」は、ガラスブロックを構造体として日本電気硝子と共に開発した秀作である。ガラスブロッ

クの透明さを外壁に生かし、それに耐震要素を負担させる考え方は、合理的でデザイン性に富んだ発想であり、この規模の建築に光明をもたらす見ごたえのある作品である。銅賞の「光のモザイク+小田急新宿ミロードリニューアル計画」は、エスカレータの吹き抜け空間の区画につきまとう空虚さを、店舗空間と一体にデザインした力量を高く評価したい。またガラスブロックを用いて屋上階の可能性を広げた「大川水産株式会社」、中庭の排水や設備機能を光でまとめた「イニシア帝塚山」は、素材を大胆にかつ素直に生かした、好感の持てる作品であった。

青木淳

提案部門 金賞となった川口案が、とりわけ目をひいた。ガラス質を、透明あるいは半透明な物質と捉える人が多い中で、まったく逆に、反射性の黒色物質として捉え、それを森の中でのキャノピー兼鏡面立体とした発想を、とてもおもしろいと思った。佳作の今掛案も、ガラス質を透明は透明でも、物質的存在感のある量塊として捉えているところに可能性を感じた。同じく佳作の柳橋+岩井案も、顕微鏡に使うパラプレートのような、ごく薄いガラス片を何枚も重ねた時の、あの独特の光の効果を思わせる素直さがあつたし、これも佳作の滝澤案

の、ガラスを繊維として織り込むことで、ガラスの柔らかさに焦点を当てたのも、優れた提案だった。このように、ガラス=透明という図式的理解からではなく、実際のガラスが持っているさまざまな様相の中から自分なりの感覚に添う様相を抽出して、それを強調するような方向に展開できた提案があつたことは、大変によかつたと思う。

作品例部門 もはや新しい使い方があつたらうか、と思うくらいに、いろいろな人が、いろいろな方法で使ってきたガラスブロックに、まだまだ未知の領域があることと実証するすばらしい試みがあつた。それ

がアトリエ・天工人のふたつの作品であり、ひとつが、構造材としてのガラスブロックの可能性を追求した「Twin-Bricks ガラスブロックシリーズNo.2」、もうひとつが、内外で壁面とガラスブロック面を同面に納めた「白いてんとう虫 ガラスブロックシリーズNo.3」だった。前者が金賞、後者が佳作のダブル受賞となった。また、「光のモザイク+小田急新宿ミロードリニューアル計画」で、赤いガラス壁のところどころに耐火ガラスファイアライトをはめ込み、防火壁に視覚的な窓を穿つたのは、サイズが限定されているこの耐火ガラスの、実に巧妙な使用方法であつた。

大工信隆

第15回空間デザインコンペティションを無事に終えることができ、主催者の一員として厚く御礼申し上げます。おかげさまで提案部門538件、作品例部門125件と、予想をはるかに上回る応募をいただくことができました。年々回を追うごとに応募作品数は増えており、このコンペティションも数あるアイデアコンペの中で、認知度の高いものに成長してきたのではないかと大きな喜びを感じております。

提案部門 今回のテーマは、自然の中に建つガラス質の生きたロッジを提案していただくものでした

が、ご応募いただいた作品はガラス質と自然とをうまく融合させた優れた作品が多く、数だけでなく質の高さも年々上がってきていると強く感じました。中でも金賞の川口案は、漆のような透明感を持つ黒色のガラス壁装材クリステルネコの「景色を映し込む」という特長に着目した、今回のテーマに最もふさわしい提案でした。この提案が実現すれば、日常の都市環境の中では味わえない神秘的で静寂な時を過ごすことができそうです。

作品例部門 どの作品も弊社建材製品の特長をう

まく生かした使い方をされていました。金賞の「Twin-Bricks ガラスブロックシリーズNo.2」では、高度な技術的研究によりガラスブロック壁を構造体の一部として使用する、ガラスブロックの新しい使い方を実現した作品でした。また、透光透視と透光半透視のガラスブロック、不透光不透視のALCを絶妙に組み合わせることで空間をデザインしている点も受賞のポイントであったと思います。今後も空間デザイン・コンペティションを通じて、ガラス建材製品の新しい使い方が数多く提案されることを期待します。